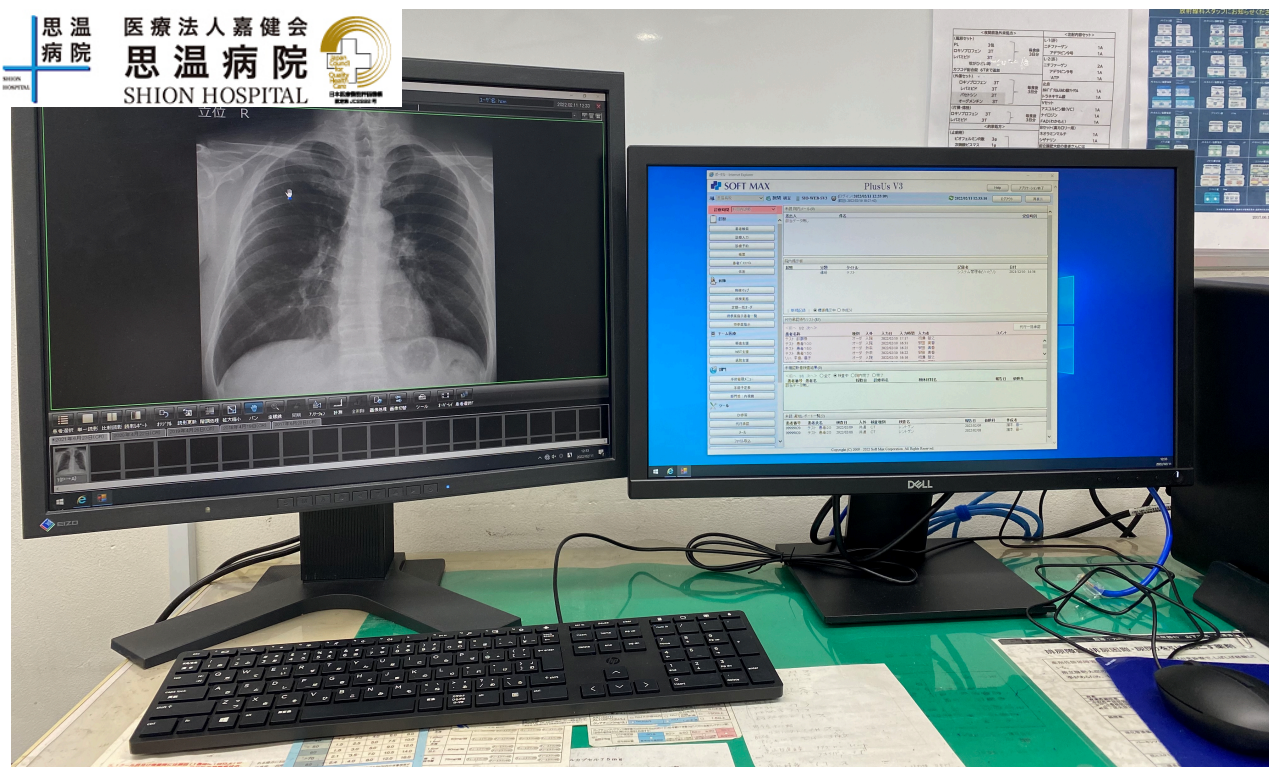


しおんだより VOL.16



当院でも電子カルテの導入が始まります

医師が診察・診療を行う時に欠かせないカルテ。もとの語源は、ドイツ語のKarte。英語のcard（カード）さらには、ラテン語のCharta（カルタ）にも行き着くようですが（諸説あり）、厚紙・小さい四角の札を表す言葉とのこと。それが、日本語に取り入れる際に、医師が、診察する際に記録する診療記録を指す言葉になったようです。

もともとは紙のカルテでしたが、コンピューターを用いた「電子カルテ」も25年ぐらい前から徐々に用いられるようになってきました。昔は大学病院のような大きな病院のみでしたが、最近では中小の病院や診療所でも用いられるようになってきました。

当院でも、長く、紙のカルテを運用してきましたが、昨年に医療の質の向上と業務の効率化を目指して、電子カルテを導入することを決定しました。それから、1年近く経ち、3月1日より運用を開始することになりました。院内では、色々なシミュレーションを行いながら、操作の訓練等も続けておりますが、業務の進め方が根本的に変わるため、当初はご迷惑をおかけすることもあるかと思います。ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします！

当院の外科外来の風景。以前はレントゲン写真をかけるシャウカステンがあった診察室の周りもすっきりしました。

病棟の看護師やスタッフも準備を進めています

カルテというと医師の診療録ということになりますが、もちろん、使うのは医師だけではありません。看護師はもちろんですが、薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士などの専門職も、それぞれ、患者さんについての介入や評価、専門的な見地からの所見をこの電子カルテシステムに入力していきます。

それらのデータや所見を、全ての職種が共有することは、患者さんに対する治療の質を向上させていくことにつながります。とくに、多職種が連携する「チーム医療」においては、この情報の共有が不可欠であり、それが、今回の電子カルテ導入の大きな理由の一つです。看護師が病棟におうかがいするためのカートも、多数配備されました。これからの病棟の風景も様変わりしていくのだと思います。



病院内に神経を張り巡らせる工事も行われていました



電子カルテ導入に先立ち
令和4年1月には、大規模な院内LANケーブル敷設工事が行われました。

電子カルテシステムは、当院でも数十台のコンピューターから構成されますが、すべての端末がサーバーと接続されていなければなりません。

そのためには、院内にそれぞれのコンピューターを接続するLANケーブルをくまなく敷設していく必要があります。当院でも、今年の1月の連休を利用して、そのための工事が行われました。もともとは、水道の配管や電気の配線などが通っているスペースを活用して、沢山のLANケーブルが組み込まれ整理していく様子は、素人目にも圧巻でした。

病院という建物が人間の身体だとすると、水道や電気の配管は、血液が通り酸素を送り届ける血管とも捉えることができますが、今回のLANケーブルは、さながら神経のようです。この「神経」を伝って様々な情報がやりとりされることで、病院での医療に関わる行為は着実に進みます。

電子カルテ導入によって、よりよい医療を皆様に提供できるように、スタッフ一同邁進して参ります。引き続きよろしく申し上げます。

しおんだより 第16号 発行日：令和4年2月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: www.shion-hp.or.jp